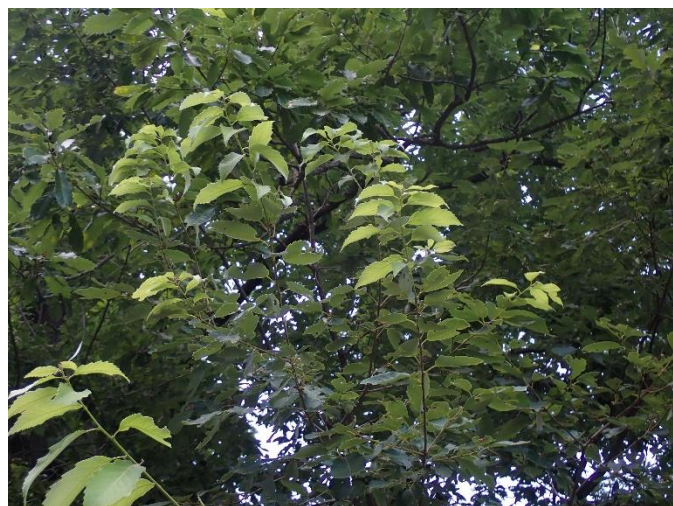


夏に伸びる植物たち

春、多くの植物は芽から茎や葉を伸ばします。それらの植物は夏には成長を終えて葉を茂らせているだけなのでしょうか。実際に野外を歩いてみると、夏の植物は活発に成長しています。樹木の枝先では新しい葉が開き、草むらや林縁ではつる植物が周囲の植物に絡みながら、光を求めて伸び続けています。



～夏にもう一度伸びる枝～



コナラのラマスシュート

落葉樹の枝は、春に一気に伸びるものが多く見られます。冬の間、枝先の冬芽の中には、春に展開する葉や枝のもとが準備されています。春になると芽が開き、葉が広がり、枝が伸びていきます。その後、枝先には新しい芽がつくられ、いったん今年の伸長を止めます。

ところが、樹木の中には、春に伸びた枝が一度止まったあと、夏にもう一度芽が動き出して新しい枝葉を伸ばすものがあります。このような夏の二度目の伸びは「ラマスシュート」と呼ばれます。日本では、夏の土用の頃に芽が動くことから「土用芽」と呼ばれることもあります。

ラマスシュートは、既に緑の葉が茂っている枝先から、明るい黄緑色や赤みを帯びた若い葉がまとまって伸び出すため、よく見るとそこだけ新しい成長が目立ちます。枝先の色や葉の柔らかさに注目すると、夏の樹木が活発に成長していることが分かります。



クヌギのラマスシュート

～つる植物の光をめぐる競争～

林縁や草むらでは、植物同士が光を求めて競い合っています。樹木は枝を伸ばして樹冠を広げ、草は茎を伸ばして、つる植物は他の植物や構造物を利用して上へ、横へと広がっていきます。

夏に植物が勢いよく伸びるのは、気温が高く日照時間も長く、雨によって水分も得やすい時期だからです。もちろん、暑すぎたり雨が降らずに乾燥したりすると植物にとって負担になりますが、それでも梅雨から夏にかけての時期は、多くの植物にとって成長のための材料が揃いやすい季節です。その中でも、特に目立つのがつる植物です。



繁茂する、つる植物のヤブマメ



高茎草地エリアのクズ(植栽)

夏の林縁や草地で、ひときわ大きな葉を広げるつる植物の一つがクズです。クズはマメ科の多年生植物で、秋の七草の一つとしても知られています。夏には非常に旺盛につるを伸ばし、周囲の植物を覆います。

クズのつるは、自分で太い幹をつくって上に伸びるのではなく、他の植物やフェンスなどにかからみつきながら広がります。これはつる植物にとって効率のよい成長方法で、太い幹をつくるためのエネルギーを少なくし、その分、長いつるや大きな葉を展開することに使うことができます。



植物の成長は、根から吸い上げた水、葉で受ける光、空気中の二酸化炭素、土壌中の養分など、様々な条件に支えられています。夏はそれらの条件が揃いやすい一方で、高温や乾燥、他の植物との競争も強まります。その中で植物たちは、それぞれの形に合った方法で成長しています。